

但馬地域デザイン案

(第4回新但馬地域ビジョン検討委員会検討資料より)

提言概要

めざすべき方向性

【検討中：第5回新但馬地域ビジョン検討委員会で議論】

テーマ別の方向性・主な意見

1 豊かな自然など但馬らしさの継承と世界の中で輝く新たな魅力の創造

〈趣旨〉

- ・世界に誇る但馬の豊かな自然、歴史や文化、ジオパークや日本遺産などの地域資源、但馬牛やカニなどの農産物等、但馬らしい魅力を再発見・再認識し、これらを守り・活かし、次代に繋ぐ。
- ・演劇祭の開催など地域の皆がわくわくする体験や面白い体験ができるとともに、芸術文化観光専門職大学による自然と芸術の共生等、世界の中で輝きを放つ地域の魅力を創造する。

〈主な意見〉

- ・今ある資源を守り、次代に伝え、但馬を但馬として残す。幸せを実感しながら自分らしく生きられる地域、安心して暮らせる地域に。様々な所を地域目線で見直すことが大事。
- ・但馬は食べ物もロケーションも抜群で、豊かさとは何かをテーマにしていける地域。本物を体験し、感動できる但馬を押し出す。歴史の深い地域であることを知ってもらう。
- ・豊岡が芸術に力を入れているように、若者がいいなと感じる文化的な部分を但馬に取り入れる。面白い体験やわくわくする体験が重要。但馬をわくわくするような地域にすべき。

2 垣根を越えた新たな人との交流・繋がりの実現

〈趣旨〉

- ・若者と高齢者、外国人と地域に住む人、移住者と地域住民、但馬の北部と南部など、今までギャップや垣根があった人との繋がりを構築し、新たな人の交流を促す。
- ・地域の魅力を発信することで地域外との新たな交流や繋がりを構築するとともに、IoTなど新たな技術を活用することで海外などとも新しい形の交流を図る。

〈主な意見〉

- ・「交流しよう」だけでは、「え、交流あるよ」となるので、外国の人であったり、老人と若者であったり、ギャップがあった垣根を越えてしまおうということを出してはどうか。
- ・「人と地域」や「地域と地域」という繋がりを、もっと重要視して、地域の魅力を発信していくことが必要。
- ・子育てや家族、仲間や地域コミュニティだけではなくて、外国などいつでもどこでも繋がれる環境ができていたらいいなと思う。

3 多様性を認め、誰もが活躍し、夢の実現に向けチャレンジできる地域

〈趣旨〉

- ・性別や年齢、障害の有無、出身国などにかかわらず、誰もが居場所と役割があり、自分らしく生きることができる等、多様を受け入れ、多様を楽しむ。
- ・「やってみよう」と自分がやりたいと思う仕事を起こすことや、新しい社会の仕組みづくりにチャレンジするチャンスが沢山あり、そのチャレンジを推奨しバックアップする。

〈主な意見〉

- ・障害のある方も子育て中の方も、外国人も男性も女性も居場所と出番があるような、多様性を受け入れられる地域であってほしい。
- ・自分の思いが出せる雰囲気、場所、機会が必要。「多様性」が育まれていくことが、街の楽しさの幅を広げていく。「多様性と寛容性を大切に作る街」ということ掲げる。
- ・自分のやりたいことの大体がここ但馬で出来るようになる。但馬だからこそ出来ることがまだまだたくさんあると思うので、それを活かしたモノがもっと増えてほしい。

4 子どもたちが生き生き育ち暮らす地域

〈趣旨〉

- ・子どもたちが自分を表現できる場所や機会があり、自らの夢や希望をかなえるため進学などの選択肢が多く、自分らしく輝いて生きる楽しさを実感できる。
- ・子どもたちが健やかに育つため、子育てを地域や社会全体で支える仕組みを更に強化するとともに、地域を牽引する国際的視野に立った人材を育てる。

〈主な意見〉

- ・自分を表現できる場所がある。子どもの進学先の選択肢が増える。子どもがほっとできる聖域のような居場所づくり。子どもが外で自由に活動できる。
- ・地域の活動に参加すること等により地域のことについて理解したうえでの教育をする。また、田舎だからといって教育の環境が貧しくなるのはよくない。
- ・学外教育、体験学習を重要視して力を入れていく。自分自身が考え抜く力を持つ人材を育てていかなければいけない。ふるさと教育も必要だが、一度地域の外にでて、外から見ることも大切。

5 暮らしやすい生活環境の充実

〈趣旨〉

- ・教育、医療、福祉、交通・通信などの社会インフラ、自動運転などの新たな移動手段の導入など、住む人々が暮らしやすいと感じる生活基盤が整っている。
- ・地震や台風などの自然災害に強く、健康で安心・安全に暮らすことができる基盤が整っている。

〈主な意見〉

- ・ICTの環境整備が必要。5G等の高速通信網の整備なら比較的早くできるのではないかな。
- ・どこに住んでも最善の医療が受けられて、家族の負担が少ないということが必要。どんな境遇の方でも最低限の医療が受けられる。医療レベルも町の魅力としては大事な目線。
- ・暮らしに必要な環境が確保され、安心安全で暮らせる地域であり続ける。若者の移住定住を促進。但馬で育った子が都会に出ても帰ってきたいと思える人づくり、繋がりが大切。

スケジュール

- 年代：20代1名、30代2名、40代6名、50代2名、60代1名（市町職員を除く）
- 性別：男性6名、女性6名（市町職員を除く）

回	日付	テーマ・論点・検討内容等
1	6 / 25	第1回新但馬地域ビジョン検討委員会 委員長選任、今後の進め方 等
2	8 / 5	第2回新但馬地域ビジョン検討委員会 新ビジョンで重視すべき点 等
3	10 / 10	第1回未来の但馬をつくるワークショップ（豊岡） 目指すべき将来像 等
4	11 / 7	第2回未来の但馬をつくるワークショップ（南但） 目指すべき将来像 等
5	11 / 29	第3回未来の但馬をつくるワークショップ（南但） 目指すべき将来像 等
6	1 / 25	第3回新但馬地域ビジョン検討委員会 新ビジョンの柱立て 等
7	3 / 28	たじま夢フェスタ（未来フォーラム）で検討状況等の報告
8	4 / 16	第4回新但馬地域ビジョン検討委員会 新ビジョンの柱立て概ね確定